

諦めなければ、きっと夢をつかむことができる

10月に開催された2020年プロ野球新人選手選択会議（ドラフト会議）。プロ野球の各球団が、新人選手を指名します。加藤さんは「読売ジャイアンツ」から育成12位で指名を受け、大きな夢に向けた一歩を踏み出しました。

【練習するほど楽しい】

加藤さんの傍らには、子どもの頃から野球ボールが転がっていました。

「野球を始めたのは、五和小学校2年生の頃。6歳年上の兄の影響で、地元の少年軟式野球チーム『五和クラブ』に入団しました。父も野球経験者で、母はソフトボールで静岡県代表にも選ばれた選手だったんです。チームが休みの日でも学校から帰ってくると、近所の公園で父と双子の弟と一緒に、暗く

なるまで練習していました。練習すればするだけ上手くなる野球の楽しさは、子どもの時から変わらないですね」

【挑戦と挫折が成長の糧】

金谷中学校時代は、硬式野

や技術を徹底的に鍛えられました。ただ当時は体も小さくて、周りは本場に上手な選手ばかり。みんなとのレベルの差を、痛感しました。島田工業高校への入学は、卒業後に就職するつもりだったので、思い切り

無力さを感じました。だから、プロ野球選手になることは夢にも考えていなかったです」

【初心を忘れず上を目指す】

野球を続けるため、東海大学海洋学部に進学した加藤さん。地道な努力が実り、プロのスカウトも注目する選手へと成長します。



金谷地域初のプロ野球選手

かとう けん
加藤 廉さん(志戸呂)

球チーム『小笠浜岡リトルシニア』に所属した加藤さん。高校は、兄も通った島田工業高校に進学します。

「中学で硬式野球を選んだのは、より高いレベルでプレーしたかったから。3年間で基礎野球をやりたいと思い、決めました。夏の地区大会では、1年時から背番号をもらい、2年時は3回戦まで進出。3年時にはチームの中心として4番を任せましたが、力を発揮できず1回戦コールド負け。

「僕は、野球のエリート街道を歩んでいないけれど、置かれた状況の中で手を抜かずにやってきました。『どんな状況でも諦めない』ことを、後輩たちに示していきたいです。ドラフト指名の後、地元の友達やお世話になった人から祝福の言葉をたくさんもらいました。応援してくれる皆さんや支えてくれる家族に、プロで活躍する姿を見せて、感謝を伝えたいです。弟がプレゼントしてくれたグラブには、信条である『初心』の文字を刺繍しています。『初心を忘れずに』を常に心掛け、きつと一軍を勝ち取ります」



持ち前の身体能力を生かした、俊足好打が魅力の加藤さん。

Shimadajin File #108
Story 島田人